

令和四年度 公開講座スケジュール

	テーマ	講演者	講演日時・会場
第1回	「瀬戸内航路の神々と倭王権 ―住吉・大山祇・宗像―」	森田 克行	令和4年7月16日(土) 13時30分から カメラアホール
第2回	「壱岐・対馬の海洋信仰と祭祀」	堀江 潔	令和4年9月10日(土) 13時30分から 海の道むなかた館
第3回	「古代北陸の航海・境界に関わる祭祀遺跡 ―寺家遺跡を中心に―」	中野 知幸	令和4年10月15日(土) 13時30分から 海の道むなかた館
第4回	「古代瀬戸内海の島々と祭祀遺跡」	妹尾 周三	令和4年11月19日(土) 13時30分から 海の道むなかた館
第5回	「日本の神々と海から考える宗像信仰の意義」	ファビオ・ランベッリ	令和5年1月21日(土) オンライン配信
第6回	「日本近世の航海信仰からみた古代の持衰」	山内 晋次	令和5年2月18日(土) 13時30分から アクロス福岡
	「南方世界の造船・航海術と信仰」	後藤 明	

主催：「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会

会場：カメラアホール 大研修室（定員 40 名） ☎811-3304 福津市津屋崎 1 丁目 7-2
海の道むなかた館 講義室（定員 40 名） ☎811-3504 宗像市深田 588 番地
アクロス福岡 円形ホール（定員 50 名） ☎810-0001 福岡市中央区天神 1 丁目 1-1

申込方法：下記HPから専用フォームにて要事前申込。受講費は無料です。
開催日の7日前までにお申し込み下さい。定員を超えた場合は抽選します。
当選者には開講日の3日前までにメールでお知らせします。
なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては開催方法を変更する場合があります。
全講座は、講演の約1ヶ月後に下記ウェブサイトで動画配信します。

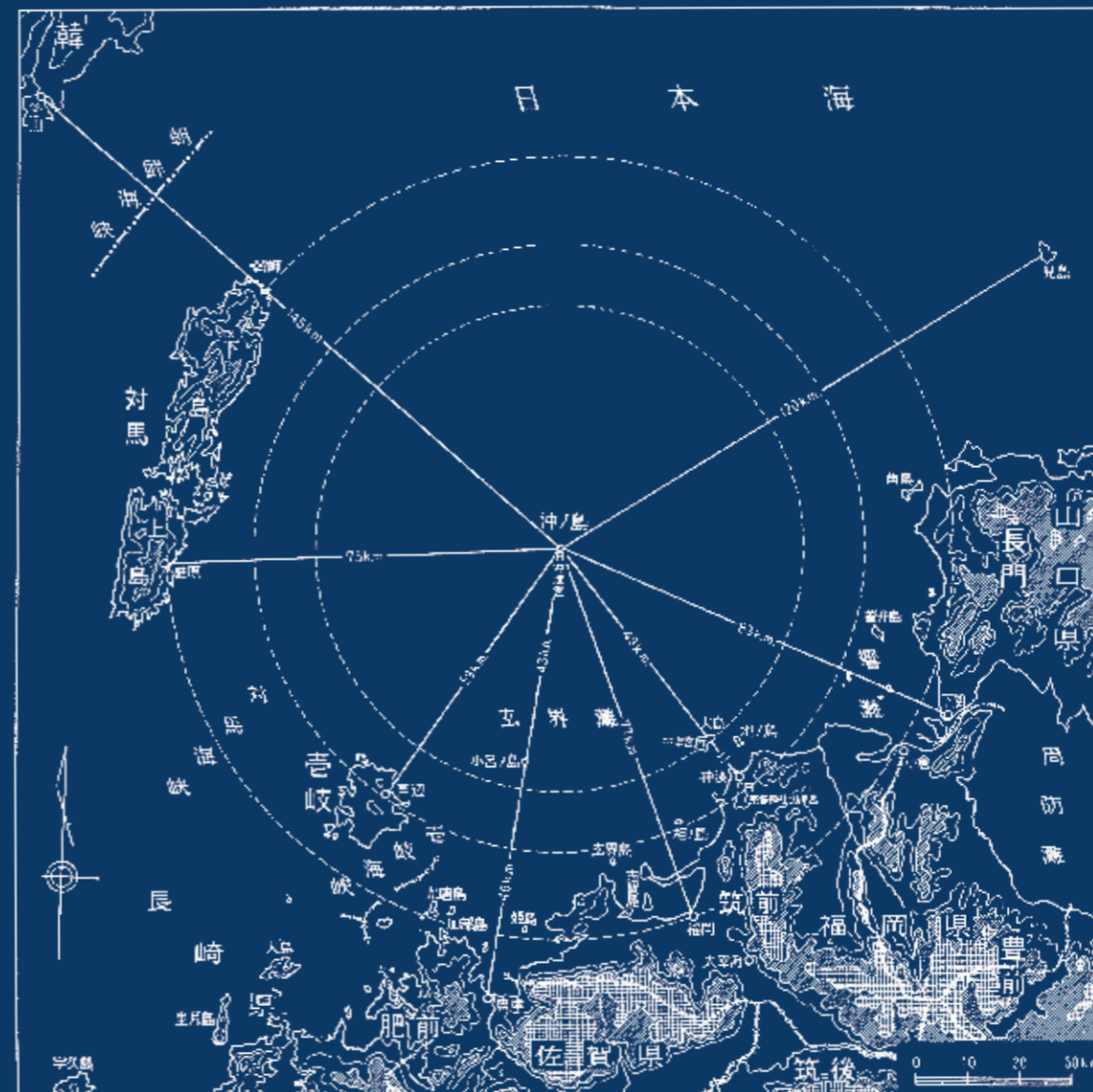
<https://www.okinoshima-heritage.jp/lectures/>



問合せ先：「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会
（事務局：福岡県九州国立博物館・世界遺産室）
☎812-8577 福岡市博多区東公園 7-7
TEL:092-643-3162 FAX:092-643-3163
E-mail: sekaiisan@pref.fukuoka.lg.jp



主催：「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会



沖ノ島の位置図（宗像神社復興期成会編（1958）『沖ノ島』）

世界遺産登録五周年記念 令和四年度 世界遺産
「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群

公開講座

古来、人々は大海原に船を出し、未知の土地へと出かけ、異文化の人々と出会い、交流してきました。穏やかかと思えば、一転して荒れ狂い、時に人々を分断し、時に人々をつなぐ海。そうした自然と人との関わりの中で、航海の安全を願う祭祀と信仰は、古代より行われてきました。

今年度は、「海と人々の関わり」をテーマとして、世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の価値について考えます。

世界遺産登録五周年記念 令和四年度 世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群 公開講座 「海と人々の関わり」

第1回 森田 克行「瀬戸内航路の神々と倭王権 —住吉・大山祇・宗像—」 令和4年7月16日(土) 13時30分から カメリアホール



今城塚古代歴史館前特別館長。専門は考古学。遺跡の実態を踏まえた地域史を日本史全体の流れに位置付ける「新地域考古学論」と国指定史跡の「積極的保存策」を展開し、独自の考古哲学を実践する。

経歴：龍谷大学文学部史学科卒業。現在、高槻市文化財アドバイザーを務める。
主な著書：『よみがえる大王墓 今城塚古墳』（新泉社2011）、『古墳時代の船と水運』（同、2014）、『継体大王と筑紫君磐井』（今城塚古代歴史館、2016）など。

第2回 堀江 潔「壱岐・対馬の海洋信仰と祭祀」 令和4年9月10日(土) 13時30分から 海の道むなかた館



佐世保工業高等専門学校基幹教育科教授。専門は日本古代史。壱岐・対馬の古代豪族・海人と大和政権の関係、古代山城の築城と機能の変遷などを通じて西北九州地域の古代史像の解明を進める。

経歴：九州大学大学院文学研究科史学専攻博士後期課程単位取得退学。博士(文学)。
主な著書：細井浩志編『古代壱岐島の世界』（高志書院、2012）、「伊吉史氏と古代壱岐島」（『古代文化』第61巻第4号、2010）、「百済滅亡後における倭国の防衛体制-斉明紀「繕修城柵」再考-」（『日本歴史』第818号、2016）など。

第3回 中野 知幸「古代北陸の航海・境界に関わる祭祀遺跡-寺家遺跡を中心に-」 令和4年10月15日(土) 13時30分から 海の道むなかた館



羽咋市教育委員会。専門は考古学(古代)。史跡寺家遺跡の調査を担当、その発掘調査成果から能登国一宮気多大社成立の解明に努める。

経歴：國學院大学文学部史学科卒業。
主な著書：「気多の神の原像を探る-古代寺家遺跡と気多の神」『展示図録いしかわの神々-信仰と美の世界』（石川県立歴史博物館、2019）、「能登の津湊と宗教施設」『北陸と世界の考古学 日本考古学協会2021年度金沢大会資料集』（日本考古学協会、2021）など。

第4回 妹尾 周三「古代瀬戸内海の島々と祭祀遺跡」 令和4年11月19日(土) 13時30分から 海の道むなかた館



廿日市市教育委員会文化財担当専門員。専門は考古学。古代祭祀・神仏習合について瀬戸内の考古学で数多くの業績があるが、特に厳島に代表される瀬戸内の古代祭祀の解明を進める。

経歴：別府大学史学科卒業。広島大学、博士(文学)。東広島市教育委員会出土文化財管理センター前所長。
主な著書：「安芸厳島弥山水精寺の創建について」（『佛教藝術』304、2009）「厳島、弥山山頂の山宮と僧徒らの山籠修行」（『厳島研究』6、2010）「安芸、厳島における新発見の祭祀遺跡」（『MUSEUM』639、2012）など。

第5回 ファビオ・ランベッリ「日本の神々と海から考える宗像信仰の意義」 令和5年1月21日(土) オンライン配信

カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授。専門は日本の宗教・思想史。物質性、海の神性と雅楽の文化史に特に関心を持ちながら、哲学的言説と物質的慣行そして前近代日本における日常生活の交差する分野を研究。

経歴：イタリア ヴェネチア大学・ナポリ東洋大学、博士号(東アジア研究)。神道国際学会会長。
主な著書：Buddhist Materiality(単著、2008)、The Sea and the Sacred in Japan:Aspects of Maritime Religion(編者、2018)、Spirits and Animism in Contemporary Japan: The Invisible Empire(編者、2019)、Rituals of Initiation and Consecration in Premodem Japan(Or Porathとの共著、2022)など。



第6回 「特集：海から沖ノ島を考える」 令和5年2月18日(土) 13時30分から アクロス福岡

山内 晋次「日本近世の航海信仰からみた古代の持衰」

神戸女子大学文学部教授。専門は日本古代・中世国際交流史、海域アジア史。日宋貿易、硫黄流通、航海信仰など、海を舞台に行われた東アジア世界の多様な交流史を読み解く。

経歴：大阪大学大学院文学研究科博士前期・後期課程(日本史学)修了、博士(文学)。
主な著書：『奈良平安期の日本とアジア』（吉川弘文館、2003）、『日宋貿易と「硫黄の道」』（山川出版社、2009）、『海域アジア史研究入門』（共編著）(岩波書店、2008)、『東アジア海域に漕ぎだす1 海から見た歴史』（共著）(東京大学出版会、2013)、『日本古代交流史入門』（共著）(勉誠出版、2017)など。



後藤 明「南方世界の造船・航海術と信仰」

南山大学人文学部教授。専門は海洋人類学、天文人類学。日本内外でカヌー復興運動に関わるほか、エアドーム式プラネタリウムを使った人類学的プラネタリウム「アンソロポリウム」を日本各地で実施中。

経歴：東京大学大学院人文科学研究科修士課程修了。ハワイ大学人類学学部大学院博士課程修了。Ph.D.(人類学)。ハワイ大学T.A、同志社女子大学教授などを経て現職。
主な著書：『南島の神話』（中央公論新社、2002）、『海を渡ったモンゴロイド』（講談社、2003）、『海から見た日本人』（講談社、2010）、『世界神話学入門』（講談社現代新書、2017）、『天文の考古学』（同成社、2017）など。

